



# 「空撮の基本」講習会

飛行機写真愛好家のみなさんと撮影会や講習会を行うと、多くはありませんが、強い要望として「空撮」を体験してみたいという声が聞かれます。撮影機・被写体機、小型機といえども2機をチャーターすることが必要で、なかなか機会が得られない上に、実現可能であっても、そのコストにたじろいでしまうのではないのでしょうか。

じつは、プロにも空撮が下手な人は少なからず目立ちます。空の上では、ひとつのことにとらわれて、他のミスに気がつかない傾向が大となりがちです。1回やってみれば、何が難しいか、どこで自由が利かないか、ある程度納得できるのではないのでしょうか。そして空撮だろうがなかりうが、空を飛ぶことは基本的に楽しい。

よりよい飛行機写真を考える上でも、制約の多い未経験のゾーンに身を置くことは高い価値があるように思います。

今回、茨城県大利根飛行場をベースとするJMGCのご協力により、JAAP

「空撮の基本」講習会が実現できることになりました。最もプロっぽい分野での講習会です。

長時間は飛ばしません。飛行機をこう動かしたら、どう写るのだろう。それを事前によく考えて、短い飛行時間を最大限に活用したいと考えています。

1名では開催が困難です。連続して4人となると、講師の安全管理に対する神経も行き届かなくなるおそれがあります。したがって2名あるいは3名の希望者があれば、日程を調整の上、開催したいと思います。



**募集人数**は、1回2名ないし3名

**集合時刻**は、1000時

**講師**は瀬尾央・今原太郎・赤塚聡ほか。1日1名。撮影機(セスナ172)前席に搭乗します。

**使用機**はJMGC(日本モーターグライダークラブ)の所属機。被写体機は、JMGCベテラン教官同乗のクラブ機(グローブG109B等、基本的に動力機でクラブ員操縦)となります。

**飛行時間**は20~30分

**参加料**は、¥50,000/人(講習料・燃料費等)

今回は飛行時間が短いため、現場プリーフィングに先立ち、事前講習も必要な気がしています。空撮は飛行の形態としては、基本的に編隊飛行です。また、空撮はパッシブな撮影ではなく、撮影者が自ら状況を作っていくものです。状況を作る前提として、まずは本欄の5点の写真から何が読みとれるかを考えていただき、お会いするなり、電話するなり、あるいはe-mailのやりとりをして考えてみましょう。

撮影機と被写体機の相互の位置関係、旋回の内側・外側、機体の水平・水平線の水平、太陽の位置と順光・逆光、プロペラの回転、背景の濃さと機体の色、スタンスと遠近感と使用レンズ、いろいろあると思います。

その上で飛行場では、使用機への接近方法、撮影機材の整頓など安全に留意し、何を撮りたいかに集中していきましょう。

自分で望んだ画をいかに撮るか、その意思を双方のパイロットに伝えるためにも、「こんな画が撮りたい」という手書きラフスケッチを数点描き、ご用意なさるとよいと思います。そして飛行中は、ヘッドセットをし、インターコムを通じてパイロットに撮影者の意志(前へ、上へ等)を確実に伝えましょう。

乗り物酔いに弱い方は、ご自身で十分な対策をして下さい。また、万が一の事故があっても、

JAAP および講師陣個人は一切の対応ができませんので、それをご家族ともご了承の上、ご参加下さい。保険等はご自身で加入になって下さい。

参加希望の皆さんは、まず参加希望の旨を事務局メール、[airworks@mua.biglobe.ne.jp](mailto:airworks@mua.biglobe.ne.jp)にお送りください。参加の可否をお伝えしますから、誓約書にご記入いただき、JAAP 口座への事前振込をお願いします。

空撮講習会の**日程は、随時**。原則として土曜日、好天を望める日、1日。2名ないし3名の参加希望者が集まれば随時開催。希望者と相談の上、他の曜日を含め本番日・予備日を決定します。

**場所**は、茨城県河内町・大利根飛行場。利根川河川敷にある飛行場で、道案内は「ニッソー・カントリークラブ」を目標にされるとよいと思います。